

北大産婦人科同門会 臨床セミナー（第48回）

プログラム

日 時：令和4年5月7日（土） 午後4時より

会 場：ニューオータニイン札幌 「鶴の間」

札幌市中央区北2条西1丁目 電話 (011) 222-1111

主 催 北 大 産 婦 人 科 同 門 会
北海道大学医学部産婦人科学教室

北大産婦人科同門会 臨床セミナー（第48回）

座長 北海道大学大学院医学研究院
産婦人科学教室 教授

渡 利 英 道

「生殖年齢の現代女性の健康を支援するために」

東京大学大学院医学研究科
産婦人科学講座 教授

大 須 賀 穰 先 生

若い先生に参考になるかと思い私事を少々。私は44才で講師になって51才で准教授になった。そして、昨年61才で教室主任となった。随分と下積みをしたので、下積みの心得は知っているつもりである。その中で最も大切に思うことは組織を大事にして働くことと、限られた自由を最大限に生かすことである。組織を大事にすることは、とりもなおさず自分の立場を大事にすることである。上司と議論することは構わないが、最終的には秩序を乱さないことが肝要である。秩序が乱れた医局ではまともな診療ができず、患者さんが不利益を被る。そう考えるとおのずと与えられた立場で仕事をしっかりとこなそうという気分になる。医局の中で働くということは多かれ少なかれ自己犠牲を伴う。それを我慢しながらも仕事を続けるためにはモチベーションが必要である。モチベーションは各個人で異なると思う。好きな研究をすること、最先端の医療に触れ続けること、教授になって教室を動かすこと、など様々であろう。私の場合はとにかく女性の健康を支援したかった。中でも働く女性の健康に興味があった。若い頃から女性の健康支援と女性活躍、ジェンダーギャップの解消が互いに深く関係していると思っていた。そのために、今でこそ注目度は高いが、昔はあまり注目されなかつ

た子宮内膜症という比較的地味な領域に踏み込んだ。日本で低用量ピルが初めて認可されたのは1999年である。しかも最初は自費で避妊目的であった。我々はいちはやく低用量ピル（今でいうLEP）を子宮内膜症、月経困難症治療に導入して取り組んできた。今では当たり前のこともひと昔前は特殊なことであった。LEPを使うというたったそれだけのことで、多くの患者さんに笑顔が戻り、今では女性活躍の基盤の一つといっても過言ではない。しかしながら、月経を取り巻く諸問題にはまだまだ解決すべき問題も多く、不妊症との関連からも注目は増している。今回の講演では月経に関連する諸疾患の最新知見について解説する。

大須賀 穰（おおすが ゆたか）

【略 歴】

昭和60年	東京大学医学部卒
昭和60年～	東京大学医学部産科婦人科学教室で研修 途中、日立総合病院、稲田登戸病院、社会保険中央総合病院、東京日立病院に出張
平成7年	医学博士（東京大学）
平成7年～9年	米国スタンフォード大学産婦人科に留学
平成16年11月	東京大学医学部附属病院女性診療科・産科 講師
平成23年10月	東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 准教授
平成25年5月16日	同上 教授
平成31年4月	東京大学医学部附属病院 副院長（兼任）

【役 職】

日本産科婦人科学会	常務理事、渉外委員長
日本産科婦人科内視鏡学会	理事長
日本生殖医学会	理事長
日本抗加齢医学会	副理事長
日本受精着床学会	副理事長
日本IVF学会	副理事長
日本生殖内分泌学会	副理事長
日本内視鏡外科学会	理事
日本腫瘍循環器学会	理事
関東連合産科婦人科学会	代表
日本女性医学学会	理事

日本エンドメトリオーシス学会	常務理事
日本婦人科ロボット手術学会	常務理事
日本生殖免疫学科	理事
日本がん生殖医療学会	顧問
日本子宮内膜症啓発会議	顧問
文部科学省科学技術・学術審議会	専門委員
国際産婦人科連合 (FIGO)	Committee Member
FIGO	Council member
International Society for In Vitro Fertilization	Scientific Subcommittee Chair
Reproductive Sciences	Associate Editor
Reproductive Biomedicine Online	Section Editor
Journal of Ovarian Research	Associate Editor
Gynecology and Minimally Invasive Therapy	Associate Editor
Reproductive Medicine and Biology	Associate Editor

【受賞】 2020 The Rogerio A. Lobo Award
(Society for Reproductive Investigation)

【専門医】

日本産科婦人科学会専門医
日本生殖医学会生殖医療専門医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医（産科婦人科）
日本抗加齢医学会専門医

【活動】

女性の健康維持・増進が国づくりの根幹と考え、精力的な社会活動、研究活動を通して女性の健康支援の重要性を社会に訴えている。

【学術集会主催予定】

2023 6. 9-11 日本抗加齢医学会（東京国際フォーラム）
2024 4.19-21 日本産科婦人科学会（パシフィコ横浜）

専門：生殖医学、女性医学、産婦人科内視鏡手術学。
主たる研究対象：女性の健康、不妊症、子宮内膜症、子宮筋腫など。